

江戸時代の皇族の別荘で感じる  
おもてなしの心

# 桂離宮

KATSURA RIKYU



かつらりきゅう

桂離宮ってどんなところ？

約2万坪の敷地に広がる池泉回遊式庭園や、四季折々の景観が美しい4つの御茶屋、書院などの建物が点在する桂離宮。皇族である八条宮家の別荘として1615年頃に造られました。造ったのは初代・智仁親王と2代・智忠親王の父子で、約50年間の間に、大きく3回の増改築を経て完成しました。

どんな用途で使われていたの？

季節の光景を見ながらのお茶席や食事を楽しんでいました。また、舟遊びやお月見など風流な遊びもされていました。



## 桂離宮の見どころ

1

さまざまな「おもてなし」



歩きやすいよう舗装された石畳の道や、空に浮かぶ月と池に映る月の両方を楽しめる月見台の設置、それぞれの建物に舟着場を置いて舟で行き来するなど、桂離宮には訪れる人に喜んでもらうための「おもてなし」の工夫や仕掛けが、たくさんあります。

2

世界に誇れる  
日本庭園の最高峰

造営当初より『天下の絶景なり』と賞されたこの庭園は、四季折々の美しさで日本の宮廷文化の美を際立たせた名苑です。ドイツの建築家ブルーノ・タウトが「日本建築の世界的奇跡」と絶賛したことで一躍有名になり、現在も世界中から多くの人々が桂離宮を訪れています。



3

日本を代表する  
美の空間



美しい唐紙を使った壁や襖、江戸時代を代表する絵師たちが画いた数々の障壁画、月や花手桶の形の引き手金具、花の形の釘隠しなど、室内の細かいデザインも訪れる人を楽しませます。桂の地は月の名所でもあることから、月を意識したデザインも多くあります。



# ( 桂離宮 MAP )

## A しょ いん 書院



別荘に滞在する間の生活の場であり、客人と対面する場所です。古書院、中書院、楽器の間、新御殿の4つの建物が雁行形という形でつながっています。

## B げつ ぱ ろ う 月波楼



中国の「水面に映る月は一粒の真珠のように美しい」という漢詩から名前が付けられた御茶屋で、その名のとおり月を楽しめる場所です。



新御殿は後水尾上皇をお迎えするために造られました

昔は舟に乗って庭園内をまわっていたそう



CHECK



離宮内には形や大きさがちがう24基の灯籠があるので探してみてくださいね!!

## C しょう きん てい 松琴亭



桂離宮の中で一番格式が高く、本格的な茶室がある御茶屋です。室内には、石畳模様(市松模様)の襖があります。

## D しょう か てい 賞花亭



桂離宮の中で一番見晴らしの良い所にあり、遠くの山々まで見渡せる峠の茶屋のような風情があります。

## E おん りん どう 園林堂



宮家代々の位牌が安置されていた持仏堂です。正面に掛けられている額は、後水尾上皇の筆と伝わっています。

## F しょう い けん 笑意軒



窓から、田園風景を楽しめる御茶屋です。襖や杉戸の引手が舟で使う櫂や矢の形をしているなど、細部のデザインが印象的です。

